

## ミニ展示

# 縄文人の地域間交流

## ～西浦B遺跡～

蔵王町役場から西へ約 300 m のところに、西浦B遺跡があります。現在、スーパーマーケットが開店し、日々各地から取り寄せられた品物が並ぶこの場所には、今から約 4,000 年前の縄文時代、現代に劣らず遠く離れた地域とも活発に交流する縄文ムラがありました。

建設工事に先立って平成 21 年度に行なった発掘調査では、約 4,000 年前（縄文時代後期前葉）の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、貯蔵穴などが発見されました。この時の出土品の中に、見慣れない文様の土器がありました。縄文土器は地域ごとにバリエーションがあり、年代によっても形や文様の流行が変化しています。町内で各時代にどのような土器が使われていたのか、これまでの調査・研究の蓄積によって大まかな内容は判明しているのですが、それらと異なる特徴の土器があれば、どこか他の地域からもたらされたものである可能性が考えられます。

その土器は、8 の字状の装飾が特徴的な注口付浅鉢で、縄文を用いずに、刻み目を加えた隆帯と沈線文、列点文で装飾されています。このような特徴の土器を探索していくと、同じ時期の北陸地方で流行した「三十稻場式」の土器であることが判明したのです。双方の土器の特徴は驚くほど良く類似しています。

さらに詳しく調べていくと、岩手県地方の「門前式」や福島県沿岸部の「綱取式」に由来する土器も確認されました。石器の石材を分析したところ、「板山産（新潟県新発田市）」と「飯豊産（山形県飯豊町）」の黒曜石で作られた矢じりも確認されました。これらはどれも、西浦B遺跡の集落に暮らした縄文人が何らかの形で遠く離れた地域とつながりを持っていたことを示す証拠です。

このように地域間交流の痕跡を残す遺跡は、各地域の拠点的な機能を持った縄文ムラであることが多いようです。近隣の拠点ムラ同士のネットワークを通じた日常的なつながりの延長に、遠隔地のモノやヒトの交流も生まれたのでしょう。西浦B遺跡の出土品から、蔵王山麓を拠点に各地の縄文ムラと活発に交流した縄文人の姿が浮かび上がってきます。

# 展示資料



地元産の土器(南境式)



北上川中流域に由来する土器  
(門前式)



北陸地方に由来する土器  
(三十稻場式)



福島県沿岸部に由来する土器  
(綱取式)

10cm

## 縄文土器



飯豊産(山形県飯豊町)



板山産(新潟県新発田市)

1cm

## 黒曜石製の矢じり